



青柳園だより

2026年
10月号
文京区立青柳幼稚園

いのちや自然に触れる経験から

園長 米澤 千秋

季節の移ろいを感じる10月を迎えました。子どもたちは、長雨の合間に心地よい風を感じながら園庭で遊んだり、小学校の体育館をお借りして、元気いっぱい体を動かすことを楽しんだりしています。

幼稚園に動物たちがやってきました

文京区の学校教育に関わる重点施策である「いのちと心の教育の推進」に関わる事業として、移動動物園を実施しました。ウサギやモルモットを膝に抱いたり、アヒルやヤギに餌をあげたり、ヒヨコやハツカネズミを手のひらに優しく包んだりする直接体験を通して、子どもたちは様々なことを感じていました。子どもたちの感想の一部を紹介します。

「ヒヨコはふわふわで、ちょっと飛んでた」「ウサギはちょーフワフワだった」「モルモットはふわもるくん(園で飼育しているモルモット)と同じ顔だった」「ヤギはおじさんみたいな目だった」「カモがすごい速くてびっくりした」「カモがカーって言った?!」「抱っこしたら温かかった」「アヒルはパンをつぶしてあげたほうが食べやすいみたい」などなど。年長ゆり組は「ゆり組動物村を作ろうよ!」と、友達と準備を進めています。子どもたちの気付きに気持ちを寄せ、いのちあるものを大切にする心を育てていきます。



ポップコーンを食べよう!

年長ゆり組が5月に種をまき、大切に育ててきたポップコーン。9月当初に収穫し、調理して食すことを楽しみに、廊下に干して乾燥させていました。そろそろポップコーンが食べ頃になったことを伝えると嬉しそうな子どもたち。まず、房から実を取ることに挑戦です。

「わぁ～硬いなぁ」「手が痛い」など、普段食べているトウモロコシとは全く違う感触だと実感するつぶやきが聞かれました。諦めずに取り続けると、ポロっと芯からはずれる面白さを感じ、「何味にする?」と期待感が高まったり、「やったー全部取れた!」と達成感を感じたりしていました。その後、安全に気を付けながら子どもたちの目の前で、透明蓋つき容器で調理をすると、「ドキドキするね。蓋もとんじゃったりして」「白いのが見えた!」「ポンポン聞こえてきた!」「花火みたいだね」「すごい! 踊ってるみたい」「いいにおい」「いっぱいできたから、ももさんにもおすそわけできそうだね」「おいしい。おかわりしたい」などなど。実が変化する様子、香ばしい香り、音、おいしさなどを存分に味わう経験となりました。



先日、自然保育コーディネーターの方のお話を伺う機会がありました。「生き物や自然との関わりは、知識として教えるのではなく、まずは出合える場を整えることが大切です。出合って心が動き、触れて馴染んで愛着をもつと、「何で? どうして?」ともっとやってみたくなり、知り得たことを自分なりに表現して伝えたいくなる。そこに受け止めて共感してくれる人がいることが大切です」というお話でした。

11月にはプロナチュラリストの佐々木洋先生をお招きし、園庭の自然体験を予定しています。身近な自然環境の中で、たくさんの不思議さや面白さに出合ったときの子どもたちの気付きがとても楽しみです。